



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二六六号〜

小寒 しょうかん

一月五日

今日はどんな日

平成三十年は、戌年。子丑寅卯…と十二支の動物の十一番目にあたります。これが干支の「支」の部分を目指し、「干」は十干の戌、今年は「つちのえいぬ」になります。

十二支の言われに比べ、あまりなじみのない十干。なんでも一カ月を十日ごとに分け、第一日目から甲乙丙丁戊己庚辛壬癸と呼んだことに由来するといえます。それが何を表しているかは不明ですが、中国史上で最古の王朝とされる殷の時代（前十七〜前十一世紀）までさかのぼるのだとか。遙か昔に考えられたものなのです。

この十干と干支を組み合わせて六十となり、一巡りすると暦が戻るため還暦の祝いを行う風習は平成の世にも続いています。

この干支は年だけではありません。日にもつけられています。例えば、一月五日は丁酉、六日は年と同じ戌戌です。新年初めの干支の日には昔ながらの行事もあり、伊勢市神社港の御食神社では初辰の日に神域の井戸水を汲む習わしが、また鳥羽の坂手島では初子の日に子日祭りをを行います。

こうした干支など暦に注目するようになったのは、「伊勢志摩歳時記カレンダー」を監修してからです。そこには、六曜、干支、朔望、潮汐、二十四節気、七十二候、旧暦とさまざまな暦注が入り、暦の面白さを改めて感じています。こうした日々の吉凶を表す暦注は古くは八〇七年に廃止されたり、太陽暦に変わる明治六年（一八七三）にも吉凶禍福関係の暦注が暦から削除されたりしましたが、かえって民間の運勢暦の出版を促す結果になったようです。迷信とはいいながら、「今日が良い日」なのかどうか、占う気持ちは古今変わらないものなのでしょう。今日はどんな日かな、暦を眺めるのも楽しいものです。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 新春郷土芸能披露

お正月にふさわしい、縁起のよい、郷土色豊かな伝統芸能が繰り広げられます。

三重県には、古くから受け継がれた民俗芸能や無形文化財が数多く残されており、地域に根付く郷土芸能の数々が、新しい年を祝い伊勢に集まります。

と き／1月中旬

ところ／おかげ横丁一帯(雨天一部内容変更あり)

● 伊勢大神楽

獅子舞のルーツである「伊勢大神楽」は、「代神楽」とも言われています。国の重要無形民俗文化財にも指定されており、この日は伊勢大神楽講社紀州支部山城社中に店々を門付けしていただきます。

と き／1月13日(土) 13:00～、15:00～

● 恵利原の早餅つき

志摩市磯部町恵利原地区に、江戸時代後期から伝わる楽しい餅つき。離子唄を歌いながら、1本の杵を2人が蝶のように舞いながら交互に取り合い、手入を交えて三者一体でつきます。

つきあがったお餅は、お客さまにお振る舞いいたします。

と き／1月15日(月) 12:00～、13:00～、14:00～

● 伊勢萬歳

正月に家々を訪問し、舞や歌で、その家の繁栄を祈る「伊勢萬歳」。現在唯一伊勢萬歳師の名を持つ鈴鹿市の村田社中(村田清光大夫・中川晃才蔵)に披露していただきます。

と き／1月21日(日) 13:00～、15:00～

五十鈴塾

○ ついに登場! 安倍晴明

あの平安時代のスーパーヒーロー安倍晴明、夢枕獏の小説が発端となり、漫画や映画、羽生結弦選手のスケートなど御存知の方も多いのですが、陰陽師として名声並びなき存在で朝廷や貴族たちの信頼を受け神秘的な数々の逸話が残っています。陰陽師とは陰陽道や天文道に基づいて、国家の大事や、天皇をはじめ皇族たちの病氣平癒、雨乞いなどを司る役目の官人をいいます。中世文学である「大鏡」「今昔物語」「宇治拾遺物語」などにも登場し、不思議な能力の持ち主であることが描かれています。物の怪がうようよしていた時代に登場した陰陽師、安倍晴明の物語にひたってみましょう。

と き／1月19日(金) 13:30～15:00

講師／西山 克(関西学院大学文学部教授)

参加費／一般1,600円 会員1,100円

場所／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

えとがし いぬ
干支菓子・戌
2018年の干支・戌の印をあしらった迎春菓子。
黄色の羊羹に軽羹を重ね合わせました。
(1月19日まで販売)

きょくじつ
旭日
(1月7日まで販売)

紅色の練りきりで白餡を包み、元旦の初日の出に見立てました。神々しい陽の光を表した金箔を添えて、おめでたい新春の気分があふれます。

よろこ
佳び
(1月8日から19日まで販売)

新たな年を迎えたよろこびを、恭賀の思いをこめて、紅白のきんとんで表現しました。山芋を使ったきんとんで、粒餡を包んでおります。